

授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態
理論看護学	1	前期	2	講義 30時間
担当教員	休波茂子、田中美恵子、長江弘子			
関連するディプロマポリシー(DP)	DP1、DP3			
授業概要	看護理論を理解し、看護実践の質の向上のための理論的考え方を学修し、概念や看護理論を分析・評価する方法を習得する。各自の専門領域における対象理解と看護課題に対し概念や理論を適用する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高度な看護実践を先導していく看護実践家として看護理論の発展・開発過程や基本構造を説明できる。</li> <li>2. 高度な看護実践を先導していく看護実践家として主要な概念や看護理論を理解し看護実践の質を向上させていくための理論的な説明ができる。</li> <li>3. 看護の取り扱う概念を分析する方法を説明でき、概念分析ができる。</li> <li>4. 看護理論をクリティックする方法を説明でき、看護理論のクリティックができる。</li> <li>5. 専門分野における看護理論の活用とその意義について考察できる。</li> </ol>			
履修条件	特になし			
授業計画	回	内容	担当教員	
	1	科目オリエンテーション 看護科学の歴史、看護理論の定義、看護理論の構成要素、看護理論の意味	休波	
	2	科学史および哲学を踏まえた看護理論の位置づけ 看護理論の根拠となる人間観、科学観と倫理	田中	
	3	理論開発に用いられる主要概念の理解、理論の評価基準 看護科学における理論と研究の関り	田中	
	4	理論構築における概念分析① 方法論的理解	長江	
	5	理論構築における概念分析② 方法論的理解：論文クリティック	長江	
	6	理論構築における概念分析③ 概念分析の実際(1) 各自の専門領域に関連する概念を選択	長江	
	7	理論構築における概念分析④ 概念分析の実際(2) 各自の専門領域に関連する概念を選択	長江	
	8	理論の分析と評価(メリイスによる看護理論の評価)	休波	
	9	理論評価の枠組みを用いた理論評価の実際① 各自の専門領域に適用する理論/代表的な看護理論 (相互作用理論：ペプロウ、トラベルビー、オーランド、他から選択)	休波	
	10	理論評価の枠組みを用いた理論評価の実際② 各自の専門領域に適用する理論/代表的な看護理論 (システム理論から全体論：オレム、ロイ、M.ニューマン、他から選択)	休波	
	11	理論評価の枠組みを用いた理論評価の実際③ 各自の専門領域に適用する理論/代表的な看護理論 (ケアリング理論：ベナー、ワトソン、他から選択)	休波	
	12	理論評価の枠組みを用いた理論評価の実際④ 各自の専門領域に適用する理論/代表的な中範囲理論(看護野アセスメントと 援助に関する理論：セルフケア理論、カルガリー華族アセスメント/介入モデル、 ノーバックのソーシャルサポートなどから選択)	休波	
	13	理論評価の枠組みを用いた理論評価の実際⑤ 各自の専門領域に適用する理論/代表的な中範囲理論 (危機理論、ストレス・コーピング理論、病気の不確かさ理論等から選択)	休波	
	14	理論評価の枠組みを用いた理論評価の実際⑥ 各自の専門領域に適用する理論/代表的な中範囲理論 (行動変容・行動強化に関する理論：保険深淵モデル、自己効力感、エンパワーメント などから選択)	休波	
	15	特定の対象または特定の領域における看護現象に焦点を当て 理論(概念)の看護実践への応用	休波・長江・田中	
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に配布された資料を熟考し、関連文献による事前学習を行い、授業に参加する。</li> <li>・事前に提示された課題に沿ってプレゼン資料を作成し、準備して授業に参加する。</li> <li>・講義後にその単元で扱った学習内容について整理し、自己の専門分野に活用できるようにする。</li> </ul>			
評価方法・基準	事前準備とプレゼンテーション50%、討論の内容50%で総合的に査定し、到達目標の達成度で評価する。			
教科書	なし			
参考書	M A.Meleis(2018). Theoretical Nursing Development and Progress (6th ed), Wolter Kkuwer B L. Rodgers, & K A.Knafl(2000)/近藤真理, 片田範子(2023). 看護における概念開発, 医学書院 McEwen, M. & Wills, E. (2022). Theoretical basis for nursing. Wolters Kluwer. 筒井真由美編集(2020). 看護理論家の業績と理論評価, 医学書院 野川道子編集(2023). 看護実践に活かす中範囲理論, メヂカルフレンド社 田畑邦治・田中美恵子編(2003). 哲学ー看護と人間に向かう哲学、ヌーヴェルヒロカワ、L O, Walker & K C.Avant(2005)/中木高夫, 川崎修一(2008). 看護における理論構築の方法, 医学書院			

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
システムティックレビュー	1	前期	1	演習 30時間
担当教員	尾崎章子、長江弘子			
関連するディプロマポリシー(DP)	DP1、DP4			
授業概要	システムティックレビューとメタアナリシス、論文クリティークによりエビデンスに基づく高度な看護実践(EBP)を行うための研究知見を正確に理解し統合する能力を習得する。システムティック・レビューの方法論的理解と高等統計学の理解、エビデンスレベルの高いデータベース(コクラン、JBI)の活用方法を習得する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. エビデンスに基づく看護実践(EBP)とそのプロセスについて理解する。</li> <li>2. システムティックレビューのガイドラインを理解しプロトコルを作成することができる。</li> <li>3. システムティックレビューに必要なデータベースを活用できる。</li> <li>4. システムティックレビューとメタアナリシスの差異を理解し、読解することができる。</li> </ol>			
履修条件	特になし			
授業計画	回	内容	担当教員	
	1	エビデンスに基づく看護実践(EBP)とガイドライン：エビデンスとは	尾崎	
	2	エビデンスに基づく看護実践(EBP)のプロセス：エビデンスの活用とは	尾崎	
	3	多様なレビューとシステムティックレビューとの比較を通して、目的と方法論的意義	尾崎	
	4	データベースを用いたエビデンスの探索：データベースの活用方法	尾崎	
	5	データベースを用いたエビデンスの探索：プロトコルの作成方法	尾崎	
	6	システムティックレビューにおける高等統計学の読解①	尾崎	
	7	システムティックレビューにおける高等統計学の読解②	尾崎	
	8	メタアナリシスの方法と高等統計学の読解①	尾崎	
	9	メタアナリシスの方法と高等統計学の読解②	尾崎	
	10	システムティックレビュー論文のクリティーク①	尾崎・長江	
	11	システムティックレビュー論文のクリティーク②	尾崎・長江	
	12	システムティックレビュー論文のクリティーク③	尾崎・長江	
	13	データベースを用いたエビデンスの探索：プロトコルの作成①	尾崎・長江	
	14	データベースを用いたエビデンスの探索：プロトコルの作成②	尾崎・長江	
15	総合討論	尾崎・長江		
事前・事後学習	<p>事前に示した資料を読んでおくこと。</p> <p>事後には講義で学んだ技術を実習で応用してみることを。</p>			
評価方法・基準	事前準備とプレゼンテーション50%、討論の内容50%で総合的に査定し、到達目標の達成度で評価する。			
教科書	Minds 診療ガイドライン作成マニュアル2020 ver.3.0 <a href="https://minds.jcqhc.or.jp/s/manual_2020_3_0">https://minds.jcqhc.or.jp/s/manual_2020_3_0</a>			
参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 吉田雅博：別冊医学のあゆみ 診療ガイドラインの作成方法と活用方法，医歯薬出版，20202.</li> <li>堀田信之：システムティックレビュー/メタアナリシス/Minds ガイドラインを書き始める方へ，克誠堂出版，20223.</li> <li>相原守夫：診療ガイドラインのための GRADE システム 第3版，中外医学社，2018</li> </ol>			

授業科目名		開講年次	開講期間	単位数	授業形態
デザイン思考法の理論と実践		1	前期	1	講義 15時間
担当教員	大滝令嗣				
関連するディプロマポリシー(DP)	DP 2、DP 4				
授業概要	デザイン思考法の基礎を学び、医療分野への応用について理解する。				
到達目標	1. デザイン思考法の基礎を理解し、他者へ説明ができる。 2. 論文やケーススタディをもとに医療現場での応用事例を学習し、理解する。 3. 実際の医療現場におけるデザイン思考法を用いた実践をシミュレートできる。				
履修条件	特になし				
授業計画	回	内容	担当教員		
	1	デザイン思考法の生まれた背景	大滝		
	2	ヘルスケア分野におけるデザイン思考法の意義	大滝		
	3	デザイン思考法の基本ステップ	大滝		
	4	ユーザーの真意を理解する技術	大滝		
	5	課題の再定義、リフレーミング	大滝		
	6	サービスのプロトタイプを作る	大滝		
	7	ユーザーのフィードバックを受け取るためのファシリテーション	大滝		
	8	海外の医療現場での応用事例	大滝		
事前・事後学習	事後課題レポートを課すことがある。				
評価方法・基準	授業貢献度、グループプレゼンテーション、事後課題レポート				
教科書	なし				
参考書	デザイン思考の教科書(ハーバード・ビジネス・レビュー)、ダイヤモンド社、2020.				
備考					

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態	
看護学研究法特論 I	1	通年	2	講義 30時間	
担当教員	長江弘子、岡本明美、田中美恵子、尾崎章子、宮下光令				
関連するディプロマポリシー(DP)	DP1、DP4				
授業概要	看護実践の変革のためのアウトカムリサーチに関する看護研究デザインを学び、その厳密性について探求する。また、アウトカムリサーチに必要な応用統計学について学び、その解析手法の適切性を理解する。そのうえで、DNP 研究プロジェクトを計画するうえで目的に合った研究デザインの構築にむけた基礎的能力を養う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アウトカムリサーチにはどのような要件が必要であることを説明できる。</li> <li>2. アウトカムリサーチとして介入研究、アクションリサーチ、混合研究法とその厳密性について説明できる。</li> <li>3. アウトカムリサーチにおける主たる研究方法を用いた論文のクリティークを行うことができる。</li> <li>4. 各自の現場の変革に向けた研究デザインについて考えることができる。</li> <li>5. アウトカムリサーチに必要な統計学的手法とその解析方法、妥当性について述べることができる。</li> </ol>				
履修条件	特になし				
授業計画	回	内容	担当教員		
	1	アウトカムリサーチに必要な要素と理論的枠組み	長江		
	2	アウトカムリサーチにおける統計学的手法の重要性と妥当性：総論	宮下		
	3-4	アウトカムリサーチに必要な統計学的手法とその解析方法、妥当性	宮下		
	5	実装研究のための臨床的アセスメント&アウトカムと研究デザイン	岡本		
	6-7	アウトカムリサーチとしての介入研究デザインとその厳密性	尾崎		
	8	アウトカムリサーチとしての介入研究デザインとその厳密性③ 論文クリティーク	尾崎		
	9-10	アウトカムリサーチとしてのアクションリサーチの研究デザインとその厳密性	田中		
	11	アウトカムリサーチとしてのアクションリサーチの研究デザインとその厳密性③論文クリティーク	田中		
	12-13	アウトカムリサーチとしての混合研究における研究デザインとその厳密性	長江		
	14	アウトカムリサーチとしての混合研究における研究デザインとその厳密性③論文クリティーク	長江		
	15	各自のDNP 研究プロジェクトに有効な研究デザインについて： プレゼンテーションと討議	長江・田中・岡本・尾崎・宮下		
	事前・事後学習	事前に示した資料を読んでおくこと。 事後には講義で学んだ技術を実習で応用してみる。			
	評価方法・基準	事前準備とプレゼンテーション50%、討論の内容50%で総合的に査定し、到達目標の達成度で評価する。			
	教科書	特に指定なし			
参考書	抱井尚子(2017):早わかり混合研究法、株式会社ナカニシヤ出版。木原雅子、木原正博(翻訳)：医学的研究のデザイン 研究の質を高める疫学的アプローチ 第4版、メディカル・サイエンス・インターナショナル。2014。筒井真由美、江本リナ(翻訳)、アクションリサーチ入門—看護研究の新たなステージへ—2010。源由理子、他、プログラム評価ハンドブック—社会課題解決に向けた評価方法の基礎・応用、晃洋書房、2020。源由理子、参加型評価—改善と変革のための評価の実践、晃洋書房、2018。帯谷博明、コミュニティを変えるアクションリサーチ：参加型調査の実践手法、ミルポア書房、2023。				
備考					

授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態																																																
看護学研究法特論Ⅱ	1	後期	2	講義 30時間																																																
担当教員	田中美恵子、岡本明美、志村千鶴子																																																			
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP1、DP4																																																			
授業概要	まず質的研究の哲学的パラダイムのヴァリエーションについて学修する。さらに質的研究にとって重要な手法である参加観察法(観察・面接技術)についてエスノグラフィーを基盤に学修する。特に現場変革に有用な小・中範囲理論を生み出す方法論としてGrounded Theory Approach について学び、現場介入の方法論としてアクションリサーチについて学修する。さらに当事者の視点を知るための方法論として、現象学的研究とナラティブリサーチについて学ぶ。最後に質的データを用いて、各方法論に基づくデータ分析の実際について学修する。																																																			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 質的研究の哲学的パラダイムのヴァリエーションについて理解する。</li> <li>2. エスノグラフィーに基づいて、参加観察法の技術を修得する。</li> <li>3. Grounded Theory Approach の理論と技術について理解し、研究に用いることができる。</li> <li>4. アクションリサーチの基本を理解し、研究に用いることができる。</li> <li>5. 現象学的研究および解釈学的現象学研究の哲学的背景と研究への応用について理解する。</li> <li>6. ナラティブリサーチの理論と技術について理解し、研究に用いることができる。</li> <li>7. 実際のデータを用いて、なんらかの方法論に基づいて、データ分析を行うことができる。</li> </ol>																																																			
履修条件	特になし																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>質的研究の哲学的パラダイムとそのヴァリエーション</td> <td>田中</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>エスノグラフィーと参加観察法(観察に焦点をあてて)</td> <td>田中</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>エスノグラフィーと参加観察法(面接に焦点をあてて)</td> <td>田中</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Grounded Theory Approach の理論と技術 (Strauss &amp; Corbin 版、M-GTA)</td> <td>田中</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>アクションリサーチの理論と技術</td> <td>田中</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>フォーカスグループインタビューの手法の理論と実際</td> <td>田中</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>現象学的研究・解釈学的現象学研究の哲学的基盤と研究への応用</td> <td>田中</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>現象学的研究の実際(研究例を用いた理解)</td> <td>志村</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ナラティブリサーチの理論と技術(ナラティブの理論的背景)</td> <td>田中</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ナラティブリサーチの実際(研究例を用いた理解)</td> <td>岡本</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>質的研究のデータ分析の実際(Grounded Theory Approach)</td> <td>田中</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>質的研究のデータ分析の実際(現象学的研究)</td> <td>志村</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>質的研究のデータ分析の実際(現象学的研究)</td> <td>志村</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>質的研究のデータ分析の実際(ナラティブリサーチ)</td> <td>岡本</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>質的研究のデータ分析の実際(ナラティブリサーチ)</td> <td>岡本</td> </tr> </tbody> </table>				回	内容	担当教員	1	質的研究の哲学的パラダイムとそのヴァリエーション	田中	2	エスノグラフィーと参加観察法(観察に焦点をあてて)	田中	3	エスノグラフィーと参加観察法(面接に焦点をあてて)	田中	4	Grounded Theory Approach の理論と技術 (Strauss & Corbin 版、M-GTA)	田中	5	アクションリサーチの理論と技術	田中	6	フォーカスグループインタビューの手法の理論と実際	田中	7	現象学的研究・解釈学的現象学研究の哲学的基盤と研究への応用	田中	8	現象学的研究の実際(研究例を用いた理解)	志村	9	ナラティブリサーチの理論と技術(ナラティブの理論的背景)	田中	10	ナラティブリサーチの実際(研究例を用いた理解)	岡本	11	質的研究のデータ分析の実際(Grounded Theory Approach)	田中	12	質的研究のデータ分析の実際(現象学的研究)	志村	13	質的研究のデータ分析の実際(現象学的研究)	志村	14	質的研究のデータ分析の実際(ナラティブリサーチ)	岡本	15	質的研究のデータ分析の実際(ナラティブリサーチ)	岡本
回	内容	担当教員																																																		
1	質的研究の哲学的パラダイムとそのヴァリエーション	田中																																																		
2	エスノグラフィーと参加観察法(観察に焦点をあてて)	田中																																																		
3	エスノグラフィーと参加観察法(面接に焦点をあてて)	田中																																																		
4	Grounded Theory Approach の理論と技術 (Strauss & Corbin 版、M-GTA)	田中																																																		
5	アクションリサーチの理論と技術	田中																																																		
6	フォーカスグループインタビューの手法の理論と実際	田中																																																		
7	現象学的研究・解釈学的現象学研究の哲学的基盤と研究への応用	田中																																																		
8	現象学的研究の実際(研究例を用いた理解)	志村																																																		
9	ナラティブリサーチの理論と技術(ナラティブの理論的背景)	田中																																																		
10	ナラティブリサーチの実際(研究例を用いた理解)	岡本																																																		
11	質的研究のデータ分析の実際(Grounded Theory Approach)	田中																																																		
12	質的研究のデータ分析の実際(現象学的研究)	志村																																																		
13	質的研究のデータ分析の実際(現象学的研究)	志村																																																		
14	質的研究のデータ分析の実際(ナラティブリサーチ)	岡本																																																		
15	質的研究のデータ分析の実際(ナラティブリサーチ)	岡本																																																		
事前・事後学習	事前に示した資料を読んでおくこと。 事後には講義で学んだ技術を実習で応用してみる。																																																			
評価方法・基準	事前準備とプレゼンテーション50%、討論の内容50%で総合的に査定し、到達目標の達成度で評価する。																																																			
教科書	指定なし																																																			
参考書	<p>ジェイムズ P. スプラッドリー著、田中美恵子他訳：参加観察法入門、医学書院、2010。  ウヴェ・フリック著、小田博志他訳：新版 質的研究入門—人間の科学のための方法論&gt;、春秋社、2011。N. K. デンジン、Y. S. リンカン編、平山光義監訳：質的研究ハンドブック第1巻～第3巻、北王路書房、2006。Strauss, A., Corbin, J. 著、操華子他訳：質的研究の基礎 グラウンデッドセオリーの開発の技法と手順 第3版、医学書院、2012。  木下康仁著：グラウンデッド・セオリー・アプローチの実際 質的研究への誘い、弘文堂、2003。ホロウエイ+ウィーラー、野口美和子監訳：ナースのための質的研究入門第2版、医学書院、2000。安梅勅江編著：ヒューマンサービスにおけるグループインタビュー法、医歯薬出版、2001。安梅勅江編著：ヒューマンサービスにおけるグループインタビュー法Ⅱ/活用事例編、医歯薬出版、2003。Roessman, C. K. 著、大久保功子・宮坂道夫監訳：人間科学のためのナラティブ研究法、クオリティケア、2014。</p>																																																			

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
看護学研究法特論Ⅲ	1	後期	1	講義 15時間
担当教員	前田樹海、長江弘子			
関連するディプロマポリシー(DP)	DP1、DP4			
授業概要	臨床現場の患者アウトカムや関わる職種との連携を含めた看護実践を明らかにするために事例研究法について学び、看護実践の質向上や組織変革に向けたアプローチ方法を開発する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護実践における事例研究法の意義とその手法を理解することができる。</li> <li>2. 事例研究法を用いて、看護実践の意図とそのプロセスを可視化し臨床的アウトカムや患者アウトカムについてを理論的に説明することができる。</li> <li>3. 事例研究を活用し看護実践の質向上や組織変革に向けたアプローチ方法を考えることができる。</li> </ol>			
履修条件	特になし			
授業計画	回	内容	担当教員	
	1	看護研究における事例研究の位置づけ	前田	
	2	事例研究における方法論(データ収集、分析方法)とその課題	前田	
	3	事例研究の質：備えるべき要素とは何か(クリティックの視点)	前田	
	4	現象学とGTAを活用した事例研究法(山本則子)	長江	
	5	リフレクションを用いた事例研究法(東めぐみ)	長江	
	6	ケーススタディ法を活用した事例研究法	前田	
	7	時間軸で軌跡をとらえる事例研究法	長江	
	8	各自の実践事例における実践のプロセスとアウトカム： プレゼンテーション	前田・長江	
事前・事後学習	<p>事前に示した資料を読んでおくこと。          事後には講義で学んだ技術を実習で応用してみること。</p>			
評価方法・基準	事前準備とプレゼンテーション50%、討論の内容50%で総合的に査定し、到達目標の達成度で評価する。			
教科書	指定しない			
参考書	<p>山本力、事例研究の考え方と戦略：心理臨床実践の省察的アプローチ。創元社。2018。          看護研究「ケアの意味を見つめる事例研究」の実践への拡がり。6月号 特集。医学書院。2022。          バーンズ&amp;グローブ 看護研究入門 原著第9版 評価・統合・エビデンスの生成。エルゼビア・ジャパン株式会社。2023。          長江弘子編著、生活と医療を統合する継続看護マネジメント第2版、医歯薬出版。2016。</p>			
備考				

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
DNP 特論 I	1	前期	2	講義 30時間
担当教員	中村美鈴、足立智孝、Jerden 鈴木麻希、橋本スティーブン			
関連するディプロマポリシー(DP)	DP1、DP3			
授業概要	DNP の役割、リーダーシップ、ならびに実践課題に対する倫理的観点について学修する。多様なヘルスケアの場において個人及び集団の生活の安全、質、健康を改善するために、エビデンス及び倫理的観点に基づき、ケア及び組織変革を行う DNP の役割を理解し、効果的にリーダーシップを実践する能力を習得する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. DNP の役割とその役割を果たすためのリーダーシップのあり方を理解する。</li> <li>2. グローバルスタンダードとしての DNP の高度看護実践の実際を知り、我が国での活動の在り方を理解する。</li> <li>3. DNP としてのプロジェクト研究の国内外の動向を知り、エビデンスを用いて、ケア及び組織変革を行う DNP の役割を理解する。</li> <li>4. 臨床倫理の基本的考え方および事例検討方法について理解する。</li> <li>5. 看護実践の問題を倫理的に推論し分析することができる。</li> </ol>			
履修条件	特になし			
授業計画	回	内容	担当教員	
	1	コースオリエンテーション、グローバルスタンダードとしての DNP の歴史と概念、役割	中村	
	2	グローバルスタンダードとしての DNP コンピテンシーと DNP エッセンシャルズ	中村	
	3	DNP のリーダーシップとその発揮	中村	
	4	DNP としての高度看護実践の探求-根拠に基づいた実践(EBP)の重要性	中村	
	5	DNP としての根拠に基づいた活動の実際：高度看護実践と現状の課題(1)	鈴木	
	6	DNP としての根拠に基づいた活動の実際：高度看護実践と現状の課題(2)	橋本	
	7	DNP としての活動の実際：質改善へ取り組みと障壁、その解決策	鈴木	
	8	DNP としての活動の実際：プロジェクト研究の取り組みの実際	橋本	
	9	DNP 役割としてのプロジェクト研究の国内外の動向(1) 米国、アジア	中村	
	10	DNP 役割としてのプロジェクト研究の国内外の動向(2) ヨーロッパ	中村	
	11	臨床倫理の基礎：倫理と倫理原則、意思決定のプロセス	足立	
	12	臨床倫理の方法論：各種検討シート、MCD 等	足立	
	13	事例検討：模擬事例の検討	足立	
	14	事例検討：各自の事例の検討 1 (事例発表と討議)	足立	
	15	事例検討：各自の事例の検討 2 (事例発表と討議)	足立	
事前・事後学習	<p>事前に示した資料を読んでおくこと。</p> <p>事後には講義で学んだ技術を実習で応用してみること。</p>			
評価方法・基準	事前準備とプレゼンテーション50%、討論の内容50%で総合的に査定し、到達目標の達成度で評価する。			
教科書	特になし			
参考書	<p>清水哲郎・会田薫子・田代志門編(2022)臨床倫理の考え方と実践—医療・ケアチームのための事例検討法, 東京：東京大学出版会.</p> <p>宮坂道夫(2016)医療倫理学の方法論 第3版, 東京：医学書院</p> <p>中村美鈴・江川幸二監訳(2025)高度実践看護—統合的アプローチ, 7th 第3版, 東京：へるす出版.</p> <p>AACN: The Essentials of Doctoral Education for Advanced Nursing Practice.</p>			
備考				

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
DNP 特論Ⅱ	1	前期	2	講義 30時間
担当教員	栗栖千幸、大野知代、渡邊八重子、渡邊亮			
関連するディプロマポリシー(DP)	DP2、DP4			
授業概要	医療経済学、医療・看護の質評価：日本の医療の実態を学び、費用効果の分析など一連の医療経済評価の手法を用いながら DNP の看護実践が医療経済にどのように影響を及ぼすのかを各対象や各施設(ミクロ)、国(マクロ)の視点で理解することを目的とする。また諸外国との比較を通して我が国における看護と政策を関連付け課題を考察する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>日本の医療保障制度、診療報酬制度、介護保険制度の課題を説明できる。</li> <li>医療経済評価の基本的知識を習得できる。</li> <li>医療経営の特徴と課題を説明できる。</li> <li>諸外国との比較を通して我が国における看護と政策の課題についてエビデンスに基づいて考察する。</li> </ol>			
履修条件	特になし			
授業計画	回	内容	担当教員	
	1	医療と経済	栗栖	
	2	日本の医療費、医療保障制度、診療報酬制度	栗栖	
	3	経済発展と国民の健康水準	渡邊(亮)	
	4	医療保険の理論、運営の実際	渡邊(亮)	
	5	医療経済評価	渡邊(亮)	
	6	医療経営の特徴と課題	渡邊(亮)	
	7	医療提供組織における経営の特徴と課題	渡邊(亮)	
	8	ガバナンスとアカウンタビリティ	渡邊(亮)	
	9	第三者評価	渡邊(八)	
	10	安全文化の醸成・医療事故防止のための組織的対策	渡邊(八)	
	11	海外の看護と政策① 開発途上国における看護制度と医療経済	大野	
	12	海外の看護と政策② 先進国における看護制度と医療経済	大野	
	13	課題：日本における看護と政策の課題－エビデンスに基づいた考察	栗栖	
	14	課題：日本における看護と政策の課題－エビデンスに基づいた考察	栗栖	
15	プレゼンテーション、ディスカッション	栗栖		
事前・事後学習	<p>事前に示した資料を読んでおくこと。</p> <p>事後には講義で学んだ技術を実習で応用してみる。</p>			
評価方法・基準	事前準備とプレゼンテーション50%、討論の内容50%で総合的に査定し、到達目標の達成度で評価する。			
教科書	特に指定せず。			
参考書	<p>角田由香、看護サービスの経済・政策論 第2版 看護師の働き方を経済学から読み解く、医学書院、2020.</p> <p>河口洋行、医療経済学第4班、日本評論社、2020.</p> <p>小松大介、病院経営の教科書〈数値と事例で見る中小病院の生き残り戦略〉第2版【電子版付き】、日本医事新報社、2021.</p>			
備考				

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
DNP 特論Ⅲ	1	後期	2	講義 30時間
担当教員	休波茂子、渡邊八重子			
関連するディプロマポリシー(DP)	DP2、DP3			
授業概要	組織の現状分析や組織変革の方法、組織におけるマネジメントとリーダーシップの在り方、看護組織における人材育成の施策を修得する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 組織に関する基礎的知識と諸理論について説明できる。</li> <li>2. 組織の現状分析や組織変革の方法について説明できる。</li> <li>3. リーダーシップの諸理論から看護マネジメントにおけるリーダーシップの在り方について考察できる。</li> <li>4. 人材育成に必要な方法を説明できる。</li> <li>5. 看護組織における人材育成を見据えた、根拠に基づいた取り組みについて提案できる。</li> </ol>			
履修条件	特になし			
授業計画	回	内容	担当教員	
	1	科目オリエンテーション組織と組織論、組織開発と組織変革	休波	
	2	組織目標と組織設計、組織の意思決定のためのプロセス、イノベーションと変革	休波	
	3	組織文化と組織分析：組織文化とは、組織文化とリーダーシップ、組織分析の方法(PPM分析、SWOT分析、マッキンゼーの7S分析、統合型コンティンジェンシーモデル分析)	渡邊	
	4	組織変革の理論：レヴィインの組織改革プロセス、コッターの組織改革理論など	渡邊	
	5	組織分析と組織変革の方法(1)：レヴィインの組織改革プロセス	渡邊	
	6	組織分析と組織変革の方法(2)：コッターの組織改革理論	渡邊	
	7	組織におけるマネジメント(1)：マネジメントとは何か、マネジメントとリーダーシップ	休波	
	8	組織におけるマネジメント(2)：トランジションマネジメント	休波	
	9	リーダーシップの理論(1)：行動理論(PM理論)、条件型(パスコール理論、フィードラーの理論、SL理論)	休波	
	10	リーダーシップの理論(2)：EQ型リーダーシップ、ジュエアド・リーダーシップなど	休波	
	11	人材育成とキャリア：キャリア理論からみた人材育成の在り方	休波	
	12	人材育成と人的資源の活用：組織デザインから考えた人的資源の活用の検討	休波	
	13	人材育成と継続教育：人材育成の視点から現状の継続教育の課題と対策	休波	
	14	人材育成を見据えた組織変革の実際(1) 組織の現状分析を通して、根拠に基づいて現場を動かす取り組みについて検討する	休波・渡邊	
15	人材育成を見据えた組織変革の実際(2) 変革理論により、根拠に基づいて現場を動かす取り組みについて提案する	休波・渡邊		
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に配布された資料を熟考し、関連文献による事前学習を行い、授業に参加する。</li> <li>・事前に提示された課題に沿ってプレゼン資料を作成し、準備して授業に参加する。</li> <li>・講義後にその単元で扱った学習内容について整理し、自己の専門分野に活用できるようにする。</li> </ul>			
評価方法・基準	事前準備とプレゼンテーション50%、討論の内容50%で総合的に査定し、到達目標の達成度で評価する。			
教科書	特になし			
参考書	E H.Schein(2010)／梅津祐良・横山哲夫訳(2011). 組織文化とリーダーシップ, 白桃書房 P. Hersey K・H.Blanchard・D E.Johnson(1996)／山本誠二・山本あづき訳(2000). 行動科学の展開 人的資源の活用, 生産性出版 R L.Daft(2001)／高木晴夫訳(2002). 組織の経営学, ダイヤモンド社 A C.Edmondson(2019)／野津智子訳(2021). 恐れのない組織, 栄治出版			
備考				

授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態
DNP 特論Ⅳ	1	後期	2	講義 30時間
担当教員	長江弘子、大野知代、志村千鶴子、伊藤隆子			
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP2、DP4			
授業概要	対象個人・家族の健康を、対象・家族が生活する地域(コミュニティ)との関連のなかで捉え、ヘルスプロモーションに適用できる理論・モデルを活用し、対象個人・家族への個別支援から地域(コミュニティ)全体の健康増進、変革へと発展させる方法を学修する。また、地域の人々の生活と健康を支える保健・医療・福祉のネットワーク化、ヘルスケアシステム構築について学修する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象個人・家族の健康を、地域(コミュニティ)と関連づけて捉える考え方について説明できる。</li> <li>2. ヘルスプロモーションの概念、理論的背景を説明できる。</li> <li>3. ヘルスプロモーションに適用できる理論、モデルについて理解できる。</li> <li>4. 保健・医療・福祉のネットワーク化、ヘルスケアシステム構築について理解できる。</li> <li>5. 根拠に基づいたアプローチによって、対象個人・家族の健康課題を個別支援から、地域(コミュニティ)全体の健康増進、変革へと発展させる手法について、事例を通して理解できる。</li> <li>6. 根拠に基づいたアプローチによって、地域(コミュニティ)全体の健康増進を目指す計画立案(一部)を体験する。</li> </ol>			
履修条件	特になし			
授業計画	回	内容	担当教員	
	1	対象個人・家族の健康と地域(コミュニティ)	長江	
	2	ヘルスプロモーションの理念、理論的背景	長江	
	3	ヘルスプロモーションに適用できる理論、モデル	長江	
	4	対象個人・家族の健康課題を個別支援から、地域(コミュニティ)全体の健康増進、変革へと発展させる手法	長江	
	5	保健・医療・福祉のネットワーク化、ヘルスケアシステム構築	伊藤	
	6	地域(コミュニティ)のアセスメント	長江	
	7	地域(コミュニティ)の健康増進と変革に向けた計画、実施、評価	長江	
	8	対象個人・家族への個別支援から、地域(コミュニティ)全体の健康増進と変革への発展ー生活習慣病予防、がん予防等の事例	伊藤	
	9	対象個人・家族への個別支援から、地域(コミュニティ)全体の健康増進と変革への発展ー在宅療養者を支える地域包括ケアシステム構築等の事例	伊藤	
	10	対象個人・家族への個別支援から、地域(コミュニティ)全体の健康増進と変革への発展ー母子保健の事例① 子育て支援(育児相談、母子の健康教育、性教育等)、女性のヘルスプロモーション等	志村	
	11	対象個人・家族への個別支援から、地域(コミュニティ)全体の健康増進と変革への発展ー母子保健の事例② 子育て支援(育児相談、母子の健康教育、性教育等)、女性のヘルスプロモーション等	大野	
	12	対象個人・家族への個別支援から、地域(コミュニティ)全体の健康増進と変革への発展ー介護予防、認知症予防等の事例	伊藤	
	13	対象個人・家族への個別支援から、地域(コミュニティ)全体の健康増進と変革への発展ー地域における終末期ケア、在宅看取り体制の事例	伊藤	
	14	根拠に基づいたアプローチと、ヘルスプロモーションのモデルを活用した地域(コミュニティ)全体の健康増進と変革を目指す計画(課題)	長江	
15	プレゼンテーション(地域全体の健康増進のための計画)、ディスカッション	長江		
事前・事後学習	事前に示した資料を読んでおくこと。 事後には講義で学んだ技術を実習で応用してみる。			
評価方法・基準	事前準備とプレゼンテーション50%、討論の内容50%で総合的に査定し、到達目標の達成度で評価する。			
教科書	特に指定しない			
参考書	日本健康教育学会編(2005):健康教育 ヘルスプロモーションの展開, 保健同人社. ローレンス W.グリーン(2005):実践 ヘルスプロモーション PRECEED- PROCEED モデルによる企画と評価, 医学書院. エリザベス T.アンダーソン(2007):コミュニティ アズ パートナー(第2版), 医学書院. その他、適宜紹介する。			

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
DNP 特論V	2	前期	2	講義 30時間
担当教員	大滝令嗣			
関連するディプロマポリシー(DP)	DP2、DP4			
授業概要	ヘルスケア分野におけるデザイン思考法の活用を理論面と実践面から学習する。			
到達目標	1. 論文やケーススタディをもとにデザイン思考法を理解し、手法をマスターすること。 2. デザイン思考法を実際の医療現場においてチームを率いることで実践し、新たな顧客価値やイノベーションを創り出すことができる。			
履修条件	特になし			
授業計画	回	内容		
	1	デザイン思考法の生まれた背景		
	2	ヘルスケア分野におけるデザイン思考法の意義		
	3	デザイン思考法の基本プロセス		
	4	デザイン思考を実行できる組織の作り方		
	5	リーダーとしてデザイン思考を実践する		
	6	ユーザーの真意を理解する技術		
	7	課題の再定義、リフレーミング		
	8	偏見を捨てて創造的に問題解決を行う		
	9	サービスのプロトタイプを作るということ		
	10	ユーザーのフィードバックを受け取るためのファシリテーション		
	11	サービスデザインとサービスマネジメント		
	12	海外の医療現場での応用事例：チルドレンズ・ヘルスシステム		
	13	海外の医療現場での応用事例：GE ヘルスケ・アシシステム		
	14	海外の医療現場での応用事例：モナシュ・ヘルス		
15	海外の医療現場での応用事例：(印)アラビンド・アイケア・システム			
事前・事後学習	事後課題レポートを課すことがある。			
評価方法・基準	授業貢献度、グループプレゼンテーション、事後課題レポート			
教科書	なし			
参考書	ハーバード・ビジネス・レビュー編集部(2020)：デザイン思考の教科書，ダイヤモンド社。 Michael Lewrick (2023): Design Thinking and Innovation Metrics , Michael Lewrick, Wiley. Michael Lewrick et al.(2020): The Design Thinking Toolbox , Wiley.			
備考				

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
DNP プロジェクト演習	2	通年	2	演習 60時間
担当教員	岡本明美、足立智孝、大野知代、志村千鶴子、田中美恵子、長江弘子、休波茂子、伊藤隆子、本田彰子、中村美鈴、千葉恵子、渡邊八重子			
関連するディプロマポリシー(DP)	DP 1、DP 2、DP 3、DP 4			
授業概要	各自の関心領域における実践現場で疑問に感じる現象と今までの学修内容から課題を特定し、ケア方法、ケアシステム、あるいは看護制度についての何らかの改革・変革に関する科学的根拠とデザイン思考に基づいた実装のためのプロジェクトを構築する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先行研究や臨床現場の現状分析結果から、実装のためのプロジェクト研究として取り組むべき研究課題を明らかにすることができる。</li> <li>2. 取り組むべき研究課題に対して、介入対象(組織・コミュニティなど)の状況に応じた、有効かつ実行可能な実装のためのプロジェクトを提案することができる。</li> <li>3. 実装のためのプロジェクト研究の計画書を作成することができる。</li> </ol>			
履修条件	特になし			
授業計画	回	内容	担当教員	
	1-5	関心領域における看護の現状と問題の検討 学生自身の経験を通して、介入対象(組織・コミュニティなど)の問題状況を検討し、取り組むべき実装のためのプロジェクト研究課題を明らかにする。	学生の研究テーマによって 該当の担当教員が担当する	
	6-15	関連領域の研究の動向と研究知見 選定したプロジェクト研究の課題に関連する先行研究やガイドライン等関連文献を検索し、研究の動向と実装のためのプロジェクト研究に活用できる知見を得る。	学生の研究テーマによって 該当の担当教員が担当する	
	16-25	プロジェクト内容の検討 先行研究やガイドライン等関連文献から得た知見をふまえて、実装のためのプロジェクトのアウトラインを作成する。 介入対象(組織・コミュニティなど)に所属するプロジェクトメンバーとの討議を通して、アプローチ方法、アウトカム指標について検討する。	学生の研究テーマによって 該当の担当教員が担当する	
	26-30	プロジェクト研究の計画書作成 取り組むべき課題、アプローチ方法、期待されるアウトカムなどの検討結果をもとに、実装のためのプロジェクト研究の計画書を作成する。	学生の研究テーマによって 該当の担当教員が担当する	
事前・事後学習	事前学習：事前に指示されたテーマについて、文献等を精読し、プレゼンテーションあるいは討議の準備を行う。 事後学習：授業内で討議した内容を、先行研究や参考図書等を用いて復習する。			
評価方法・基準	事前準備とプレゼンテーション50%、討論の内容50%で総合的に査定し、到達目標の達成度で評価する。			
教科書	特に指定なし			
参考書	<p>中村美鈴・江川幸二監訳(2020)高度実践看護—統合的アプローチ—, 6th 第2版, 東京:へるす出版.</p> <p>AACN: The Essentials of Doctoral Education for Advanced Nursing Practice. Terry, A. (2022). Clinical research: for the doctor of nursing practice. Jones &amp; Bartlett Learning.</p> <p>Zaccagnini, M. &amp; Pechacek, J. (2021). The doctor of nursing practice essentials. Jones &amp; Bartlett Learning</p> <p>Chism, L. (2021). The doctor of nursing practice: a guidebook for role development and professional issues. Jones &amp; Bartlett Learning</p> <p>McEwen, M. &amp; Wills, E. (2022). Theoretical basis for nursing. Wolters Kluwer.</p> <p>Moran, K., Burson, R. &amp; Conrad, D. (2023). The doctor of nursing practice project: a framework for success. Jones &amp; Bartlett Learning</p> <p>Polit, D. (2010). Statistics and data analysis for nursing research. Pearson.</p> <p>Houser, J. &amp; Oman, K. (2011). Evidence-based practice: an implementation guide for health care organizations. Jones &amp; Bartlett Learning</p>			

授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態
DNP プロジェクト研究	3	通年	3	演習 90時間
担当教員	志村千鶴子、足立智孝、大野知代、田中美恵子、長江弘子、伊藤隆子、休波茂子、岡本明美、本田彰子、中村美鈴、千葉恵子、高野海哉			
関連するディプロマポリシー(DP)	DP 1、DP 2、DP 3、DP 4			
授業概要	各自のテーマについて改革・変革プロジェクトを実施・評価する。高度看護実践者(看護管理者を含む)として自らプロジェクトを計画しエビデンスに基づいた実装方法を実施し、科学的方法に基づいた評価を行い、博士論文としてまとめる。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実装のためのプロジェクト研究計画に従って、リーダーシップを発揮してプロジェクトチームの結成、対象へのアプローチを実施することができる。</li> <li>2. 実装のためのプロジェクト研究計画に従って、データ収集および分析を遂行することができる。</li> <li>3. アプローチによる改革・変革について、プロジェクト研究計画で設定したアウトカムと臨床におけるアウトカムの両面から評価することができる。</li> <li>4. 実装のためのプロジェクト研究の経過および成果について発表し、プロジェクトの有効性や医療および看護分野への貢献度について評価することができる。</li> <li>5. 文献検討、研究計画、プロジェクト研究の結果に基づいて、DNP プロジェクト研究論文を執筆することができる。</li> </ol>			
履修条件	特になし			
授業計画	<p>1～3回 実装のためのプロジェクト研究計画に従って、プロジェクトチームを結成し、介入対象へのアプローチを実装する。</p> <p>4～31回 実装のためのプロジェクト研究計画に従って、介入対象へのアプローチと同時にデータ収集および分析を実施する。</p> <p>32～33回 アプローチによる変革について評価する。34～35回 実装のためのプロジェクト研究の実施状況および成果を発表し、評価する。</p> <p>36～45回 プロジェクト研究論文を執筆する。</p>			
評価方法・基準	実装プロジェクトの計画・評価・発表(40%)、プロジェクト研究論文作成への取り組み姿勢および論文作成(40%)、学位論文審査の内容(20%)から総合的に査定し、DNP 特別研究の達成度を評価する。			
事前・事後学習	事前学習(2時間程度)：プロジェクト研究の課題、研究手法に関する論文や書籍の精読 事後学習(2時間程度)：プロジェクト実装方法、データ収集・分析方法、アウトカム評価、論文執筆の内容の検討			
教科書	指定なし			
参考書	<p>中村美鈴・江川幸二監訳(2020)高度実践看護—統合的アプローチ—, 6th 第2版, 東京:へるす出版.</p> <p>AACN: The Essentials of Doctoral Education for Advanced Nursing Practice. Terry, A. (2022). Clinical research: for the doctor of nursing practice. Jones &amp; Bartlett Learning.</p> <p>Zaccagnini, M. &amp; Pechacek, J. (2021). The doctor of nursing practice essentials. Jones &amp; Bartlett Learning</p> <p>Chism, L. (2021). The doctor of nursing practice: a guidebook for role development and professional issues. Jones &amp; Bartlett Learning</p> <p>Moran, K., Burson, R. &amp; Conrad, D. (2023). The doctor of nursing practice project: a framework for success. Jones &amp; Bartlett Learning</p> <p>Polit, D. (2010). Statistics and data analysis for nursing research. Pearson.</p> <p>Houser, J. &amp; Oman, K. (2011). Evidence-based practice: an implementation guide for health care organizations. Jones &amp; Bartlett Learning</p> <p>McGonigle, D. &amp; Mastrian K. (2024). Nursing informatics and the foundation of knowledge. Jones &amp; Bartlett Learning</p>			
備考	・看護研究について5年以上の経験を持つ教員が教授・指導する。			